令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪市	学校名	大阪市立高殿小学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	全学年　総合・社会	時数等	５時間

目標・人権教育のねらい	視覚障がいのある人、歩行が困難な人など、共生に必要な合理的配慮を知る。 自分を含めて様々な立場の人と、違いを認め共に生きていこうとする態度を育てる。

実施した内容	・「アイマスク体験」体験学習（３年） ・「車いす体験」体験学習（４年） ・「自閉症・感覚過敏動画体験」体験学習（５年） ・「友だちを知ろう」（全学年）

工夫した点	・全学年に様々な配慮を要する児童が在籍している。同じ学年・クラスの友だちとして、友だちを知る機会を４月に設定している。一人ひとりの良さに気付かせている。 ・旭区役所、NPO団体の協力で、体験学習に取り組んでいる。さまざま人がいて、障がいのある人との出会いがあったときに、自分の立場でできることを考えるようにした。全員が体験することで、感じたことを交流する時間を多く設定した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	１年道徳「どんなかんじかなぁ」生活「わたしのもちあじ」 ２年自主学習「十人十色のカエルの子」

事業成果

学年目標のテーマとして、毎年１年生は「わたしのもちあじ」を設定している。一人ひとりの違いを個性としてとらえられるようにし、自他共に認められる心を育んでいる。「もちあじ」の言葉は、全学年共通で大切にしており、４月の始めはこの言葉から学年・学級開きをして、自己紹介や友だち理解を進めている。

障がいのある人の「あたりまえ」や「普通」を、体験を通してわかる機会として中学年で設定している。アイマスクや車いすなど、旭区役所を通じて、NPO団体からお借りできた。台数も余裕があり、２時間で体験活動ができた。児童は、体験を通して、自分と障がいのある人の違いを感じ、受け入れることができた。また、障がいも「その人の個性、もちあじ」として理解でき、自分ができることを考えられる前向きな姿勢を養うことができた。



令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪市	学校名	大阪市立高殿小学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	３～６年　総合・社会	時数等	11時間

目標・人権教育のねらい	地域の人との交流や、食肉産業の学習を通して、偏見を持たず、愛着がもてるようにする。友だちのがんばりを応援する気持ちの大切さに気付き、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。
実施した内容	・「千人塚の歴史から地域を学ぶ」体験学習（３年） ・「お肉をつくる仕事」（４年） ・太鼓クラブ「絆」の演奏（４～６年） ・「水平社宣言」（６年）
工夫した点	・生江地区の戦争の歴史を学び平和の大切さを学ぶことが本来のねらいである。千人塚の見学の際、講師先生から、生江地域の昔の様子もお話していただいた。 ・「牛と魚は、どのように食卓に届くのか？」という発問から、牛を割る仕事に対する差別や、割る仕事に就く人への思いなどを独自教材で学習した。授業の様子は、生江関連５校に公開した。中学校との人権教育の連携も図った。 ・　太鼓クラブ「絆」は、本校児童のうち、７０名が参加して活動している。人権発表会の場で演奏する際、演奏に加えて、人権教育主担から「革のありがたみ」について全校児童に伝えた。 ・社会科の学習の中で、水平社宣言を通して、部落差別について考える時間を作った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	４年総合的な学習の時間「お肉を作る仕事（畜産業）」道徳「職業と性別」 ６年「江戸時代の身分制度と人々のくらし」

事業成果

毎年３年生は地域学習で「千人塚」を訪れている。千人塚の由来やお寺の果たしてきた役割についてのお話を聞き、生江の町の歴史やそこに住んでいた人々の思いにも触れることができた。人権教育主担が、「高殿小学校の歴史や社会見学の意義」について話し、自分たちが住んでいる地域を見つめる気持ちが育った。

日頃よく食べるものに、牛肉と魚があり、食卓にあがるまでの流れを確認した。それぞれが店頭に並ぶとき、「肉は一頭そのままでは売られていない」ことに気付き、牛を肉の形にさばく必要があることがわかる。命をいただくため、牛を割るという言葉があることや、その仕事に対する偏見や差別があることを学習した。授業は、生江関連５校に公開し、授業後に意見交流会を設定したことで、部落問題学習の研修になった。

太鼓クラブ「絆」は、教職員と地域に住む講師先生で運営し、水曜日の６時間目の時間に活動している。心をそろえる大切さ、まわりを見て聞くことの大切さを、太鼓を通して学んでいる。クラブができた当時の思いも引き継ぐために、太鼓の革についても学んだ。演奏と学んだことを、人権週間の「なかよし集会」で、全校児童と保護者に向けて発表した。









令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪市	学校名	大阪市立高殿小学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	全学年　総合・社会	時数等	13時間

目標・人権教育のねらい	自分のルーツを大切に思うこと、自分の国だけでなく、外国や地域につながる人たちの思いも尊重する態度を養う。 習慣や文化を理解し、互いを受容し、共生していき、問題解決にあたる方法を身に付けられるようにする。
実施した内容	・「コリアタウンの見学」（５年） ・「韓国人原爆犠牲者慰霊碑の見学」（６年） ・第２共生拠点かけはし「国際文化を学ぶ」（２、３、６年） ・民族講師との交流授業（１～６年）、国際クラブ「セッパラム」、ワールドキッズの会（課外活動）
工夫した点	・民族講師の話を聞く時間を事前に設定し、充実した見学になるようにした。 ・コリアタウンの見学では、「家へのおみやげを買う」ことで、お店の人とのコミュニケーションを図るようにした。その際、韓国語で話せるように、あいさつ（こんにちはやありがとう）の言葉を学んだ。 ・本校にある第２共生拠点「かけはし」の先生を招き、その国の言葉や風習について学ぶ機会を設定した。 ・民族講師との交流では、韓国・朝鮮の遊びや楽器などの文化や歴史を実施に体験して学べるようにした。 ・毎週水曜日の６時間目の国際クラブ「セッパラム」 は、年間通じて行っている。学期に１回、外国にルーツのある児童に声をかけ、外国文化を体験する、ワールドキッズの会に取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	５年特別活動「コリアタウンについて知ろう」「創氏改名」 ６年英語「Let’s go to HIROSHIMA」

事業成果

毎年１１月、社会見学でコリアタウンの見学に行っている。御幸森天神宮の石碑から、大昔から日本と韓国朝鮮は交流があり、そのおかげで今があることも学んだ。
また、コリアタウンは、異文化の人たちが暮らしていて、その違いを大切にし、今は違いを楽しめる町となっていることを、見学や交流を通じて学ぶことができた。





広島の修学旅行では、事前にソンセンニムから、慰霊碑について学び、千羽鶴同様に、亀を折り捧げる風習を知った。平和への思いを、折り紙に書き、亀を折って、慰霊碑にささげた。韓国朝鮮にルーツのある児童が代表で、平和への思いを述べた。



校内に第２共生拠点「かけはし」がある利を活かし、毎年交流している。中国、ベトナム、台湾など、国にこだわらず設定し、文化や風習の違いを学んだ。世界にはさまざまな国があり、日本でも多くの人が生活していることを知り、外国の人だから、日本の人だからと、区別せず、受け入れる気持ちを育てる機会としている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	大阪市	学校名	大阪市立高殿小学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	全学年　総合・社会	時数等	10時間

目標・人権教育のねらい	インターネットやSNSを利用する良さや課題について理解する。 インターネットやSNSを使用するとき、どのような行為が人権を侵害していることになるのか具体的に考え、自分自身の生活を振り返り、正しく使用する方法を身に付けられるようにする。
実施した内容	・「高殿小学校まちの安全・安心まもり隊！」総合（総合的読解力）（５年） ・「正しいスマホとの付き合い方」出前授業（５年） ・「アンケート結果からわかること」総合（４、６年）
工夫した点	・インターネットやSNSを利用して当たり前の時代であり、どのように扱うかが大切であるため、「スマホの向こう側にいる人の思い」を意識できるように、具体的な事案を取り入れた。いじめいつながる使い方については、実生活に起きていないか、互いに見合う意識を高めた。 ・学力経年調査の結果からも、本校の児童は、インターネットを使って動画をみたりゲームやSNSを使ったりしている時間が長いことがわかる。このデータを児童に示し、日頃の使い方や使う時間について考えさせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	５年総合（総合的読解力）「高殿小学校まちの安全・安心まもり隊！ 」 ４年国語「調べたことを発表しよう」

事業成果

誰もが住みよい町とは、人権が大切にされる町であることを前提に、広く高殿の町を見渡し、さまざまな安全・安心が確保されていることに気付いた。その中で、セキュリティには、インターネットの利用が欠かせないこと、すぐに通報や、相談ができるシステムがあることを理解できた。大阪市には、子どもが相談できる「LINE相談窓口」や、一人一台端末の「相談申告機能」があること、また、友だち同士のトラブルもSNSを介することがあることから、正しいインターネット、SNSとの付き合い方を考えることができた。インターネットやスマホ、SNSを上手に利用できるように、出前授業を計画できた。

学力経年調査児童質問紙「ふだん（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、インターネットを使って、動画を見たり、ゲームやＳＮＳなどをしたりしますか。」の結果を示した。「平日、４時間以上」と回答した児童は、学年を経て高くなっていて、各値は、大阪市平均よりも上回っている。これを元に、「長時間画面を見続ける弊害」「身近に起きているトラブルに、どのように対応するか」という話し合いを重ねた。４年生は、調べてわかったことを発表した。その際一人一台端末を利用し、パワーポイントで資料作成も行ったり、「画面共有するにもインターネットが利用されている」など、利便性についても理解することができた。

平日　4時間以上	4年生	5年生	6年生
R6（昨年度）％	17.1	15.0	13.0
R7（今年度）％	20.6	40.2	22.1